

ペイロール 3年後 250人体制に 開所式で雇用創出約束

【江別】JR江別駅前の再開施設「えべつみらいビル」(江別二の五)に進出した給与計算代行業のペイロール(東京)が八日、同ビル三階で業務を行うセンターの開所式を行った。湯浅哲哉社長(左)は札幌出身は会場で「三年後には正社員二百五十人体制にしたい」と大規模な雇用創出を約束した。

(相川康暁)

開所したのはペイロールの採用を進めている札幌北道BPO(ピーエスプロセサウトソーシング)センター。同社の取引先である、関東圏中心の二百三十三社約三十五万人分の給与の年末調整手続きや明細の印刷・発送、電話対応などを行う。当面は正社員二十三人体制で、本年度中に正社員を新たに四十二人程度雇用する。現在パート従業員約六十人



開所式にはトップセールスで誘致活動に取り組んだ三好市長らも出席。「待ちに待っていた」と進出に感謝し、「地元での就職志向が強い市内の四大学二短大の人材を生かして」と要望した。同社は一九八九年設立で、〇八年度の売上

成など人にしかできない作業も行う給与計算のアウトソーシングとしては国内最大手。通信料低減効果実証実験で検証ノーステック財団

高は二十四億円強。受け付け代行やデータ総合振興センター(ノーステック財団、札幌)

2009.4.2 北海道新聞

ペイロール業務開始

JR駅前施設

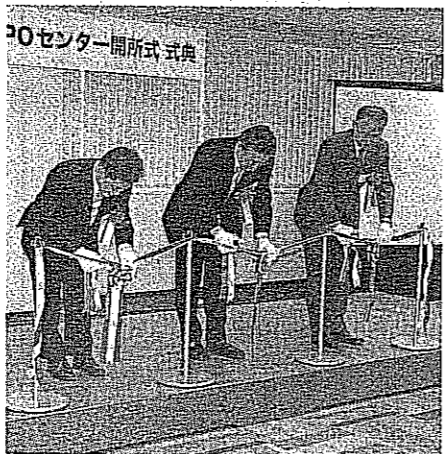
【江別】JR江別駅前の再開施設「えべつみらいビル」に進出した、給与計算代行業ペイロール(東京)が一日、同ビル三階で業務を始めた。当面、社員二十二人

が業務に当たり、今後スタッフが拡充していく。同社は二〇一二年までに二百五十人規模の採用を予定しており、雇用創出が期待されている。

八日に湯浅哲哉社長や三好市長が出席し、開所式を行う。

江別市誘致企業 営業所を開所

江別市が誘致した「ペイロール」(本社・東京都江東区、湯浅哲哉社長)の営業所「北海道BPOセンター」の開所式が八日、営業



所のあるJR江別駅近くの「えべつみらいビル」(二の五)で行われた。写真。同社は、企業からの委託で社員の入退社記録管理

2009.4.9 読売新聞

均年齢が30歳を切る若い会社です。どうぞよろしくお願ひします」とあいさつ。三好市長は「待ちに待った開所です。誘致企業としてぜひビジネスモデルになっていただきたい」と歓迎していた。

や通勤費、年末調整などの給与計算業務を行っている。今年4月現在で受託は233社、約35万人に上っている。従業員は266人で、売上高は24億5700万円(3月期見込み)。北海道BPOセンターは、同ビル3階の全1247平方メートルを使い、地元雇用12人を含む23人で今月1日から業務を始めている。10月から65人、2012年度には250人体制に増員する。また、地元主婦などをパート従業員として、5月に60人、9月にさらに160人を加えるなど、計250人程度を雇用するという。開所式には、湯浅社長をはじめ、三好市長や地元経済関係者ら約50人が出席。湯浅社長は「社員の平

2009.4.9 北海道新聞

ペイロール 江別に給与計算拠点 12年メドに500人まで増員

給与計算代行最大手のペイロール(東京・江東区、湯浅哲哉社長)は八日、江別市に給与データ入力作業や問い合わせ応答業務などを担う拠点を開設した。湯浅社長は今年中にパートタイマーを含めて三百人弱、二〇一二年には五百人規模にまで人員を増やす計画を明らかにした。

市の特別目的会社(SPC)が運営する「えべつみらいビル」。システム開発チームも江別に集約する。北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)が道内進出企業に格安で通信回線を提供する枠組みを活用し、新拠点と東京本社を結ぶ。通常なら月二十万〜二百四十万円程度かかる毎秒三十ギガの回線利用料が十分の一に抑えられる。ノーステック財団によると、適用はペイロールが初めて。同社は現在、二百社以上の給与計算を請け負う。顧客企業の従業員からの問い合わせや大量のデータ入力、給与明細の発送にはまとまった人手が必要で、コストの安い江別を拠点に選んだ。

2009.4.9 日経新聞